さんこう昔話文庫

第4話 積み石

箭山権現石舞台の上に２個の大石が載っている。地元では「積み石」と呼んでいるが、これについて、【八面山に腰かけた大男】以外に次のような話も伝わっている。

昔、ウウヒト（大きな人）という人がいた。夏のある日、あちこと廻っているうち昼になった。「これはいい場所があった。ここで昼飯を食べよう」と腰かけたのが八面山であった。左足を金色の山に、右足を仮宮と小倉谷の間の山にふんばった。金色の山にはその足跡だという窪みがあるという。ウウヒトは、弁当からむすびを取り出して食べはじめた。するとむすびの中に石が混じっていて、噛んでしまった。石は二つに割れて、一つは歯にはさまった。はさまった石は大平山の木を引き抜き、楊枝にして取り除いた。石舞台の上にある二つの石は、このウウヒトが口の中から取り出して置いた石だという。

飯を食べ終わったウウヒトは、周防灘の水を口づけにして飲んだ。飲み終わって「あゝうまかった」と腰を伸ばし空を仰いだ。その途端、天に鼻を打ちつけ息絶えてしまったそうである。